

地域との関わりの実践 ～地域の中の施設として～

地域の中で施設は何をできるのかを、自治会や民生委員、地域住民と一緒に考えてきた。祭りや運動会などの行事だけでなく、地域の清掃活動や小学校の見守り、施設の建物や設備の開放など地域交流を続けている。今後も、地域の中の施設として何ができるのかを考え、地域との共生を目指して取り組んでいきたい。

社会福祉法人 **サンライフ**

〒509-0143 岐阜県各務原市鷺沼小伊木町3-170-1

TEL：058-379-5411/FAX：058-370-9211/E-Mail：g-houkatu@e-sunlife.or.jp

【法人の概要】

法人設立年：昭和62年
 経営施設、特別養護老人ホーム 8 施設
 定員計840床（ショートステイ含む）
 全室個室・ユニットタイプ4施設
 （特養350床・ショート62床）
 従来型4施設（特養364床・ショート64床）／介
 護老人保健施設…3施設（定員348床）／ケアハ
 ウス…3施設（定員160名）／ケアハウス（特定
 施設）…1施設（定員29名）／デイサービス
 13施設…（定員428名）／デイケア…3施設
 （定員180名）／グループホーム…12施設
 （定員計135名）／生活支援ハウス…2施設
 （定員計25名）／小規模多機能型居宅介護
 …2施設／その他＞訪問介護…4／訪問リハビリ
 …1／居宅支援事業…9／在宅介護支援センター
 …1地域包括支援センター…4／福祉用具レンタ
 ル…2／ホームヘルパー養成事業…2

愛知県（名古屋市、春日井市、江南市）岐阜県
 （各務原市）、長野県（下諏訪町、岡谷市、辰野
 町、箕輪町、木曾町）において、高齢者福祉施
 設を経営している法人です。
 平成19年度は、名古屋市熱田区、愛知県春日井
 市、長野県岡谷市で新規施設を予定しています。
 毎年、海外研修を行っています。（サンフラン
 シスコ・オーストラリア）
 毎年、アメリカから臨床心理士を招き、利用者
 様と職員との心のケアについての研修会を行っ
 ております。
 研修センターを設置し、各職種に応じた研修会、
 資格取得に向けた勉強会を実施しています。
 50事業所でISO9001を取得し、利用者様本位の
 サービス充実に努めています。

【法人の理念・経営方針】

利用者様の立場になって考えましょう。
 利用者様の生きてこられた人生・価値観を理解し
 ましょう。
 利用者様の声、希望を無視しないで耳を傾けま
 しょう。
 利用者様の気持ち、体を傷つけるようなことは絶
 対許されません。
 施設は孤立してはいけません。家族地域との連携
 を考えましょう。
 法律、その他基準に従って運営を行います。福祉
 事業の変化と改革の先駆者となるよう、常に組
 織・運営を見直します。
 <使命>
 プロフェッショナルとしての最高の福祉サービス
 を創造する。

実施施設の概要

施設名：ジョイフル各務原
 施設種別：特別養護老人ホーム（80）
 ショートステイホーム（20）
 デイサービス
 一般型（35）
 認知症型（12）
 グループホーム（9）
 居宅介護支援事業所
 地域包括支援センター

活動開始年：平成15年4月
 活動の対象者：小伊木町の方々

活動実施の背景、実施にいたった理由

ジョイフル各務原は岐阜県各務原市鷺沼小伊木町の住所を有する。開設当初より「地域の中の施設として」を大事にしていきたいとの理念を掲げていた。その気持ちを地域に伝えていきたいと思い、地域の自治会などに顔を出させていただき、声を届けてきた。そのような中、ある民生委員の方の協力のもと、本当に地域の中の社会資源として施設に何が出来るのか、そして小伊木町が何を施設に協力していただけるのか等を、施設、自治会が一緒になって考えていくことになった。

実施内容

開設初年度、施設の納涼祭（夏祭り）では地域の方々に参加していただくことが出来た。そして、当施設で実施している秋祭りにおいては、地域で行われている山車やお囃子を行ってくれるとの申し出があり、地域の方々と一緒に、取り組むことができた。そして、それ以降は、当施設で開催する秋祭りを地域のお祭りの1つの様に捉えてくれるようになった。

その後も、祭り等のイベントだけでなく、交流が続いている。

交流活動としては、畑を貸していただいたり、小伊木町の子供会の活動を施設で実施したり、地域の秋祭りに参加したり、市民清掃への職員・利用者の参加、小学校の登下校の見守り隊に利用者・職員が参加するなど広く関わらせてもらっている。

活動効果

地元の市民運動会に参加させていただいたとき、当施設にお住まいの利用者は元々岐阜県各務原市鷺沼小伊木町の住民であったため、小伊木町のテントの中で地元の方と一緒に、小伊木町の住民として応援をすることとなった。運動会では、地元の方々と応援を通じた一体感を得るだけでなく、我々職員もこの地域で暮らしている人が施設にいたという当たり前のことに気が付かされる機会となるなど、これまでの地域の方々との関わりを通して、地域に暮らすこと（共生）の意味を再確認する機会となっている。

今後の課題

民生委員の方を始め、自治会長並びに地域の方々全ての協力無しでは、このような関係を築くことが出来なかったと思う。感謝とすると共に、施設は地域と共に歩むことの大切さを読みしめていきたいと思う。職員の入れ替わりや業界を取り巻く厳しい情勢もあるが、このような関係の継続性が一番の課題でもあると感じる。これからも地域の中の施設として取り組んでいきたい。

また、併設の地域包括支援センターとの連携を強化していくことが、地域の福祉ニーズを知り、福祉施設としての存在意義を深めていけることになると考える。

